

16 ミリ映写機操作講習会の方向性

群馬大学教職大学院客員教授 立見 康彦

■はじめに

教育現場では、教員の働き方改革、教員の多忙化解消において、さまざまな提言がなされ、それが推進されている。しかし、その中身を見ると、学校や教員として、やらなければならない、大事にしてきたことまで、廃止や縮小されていることが見受けられる。この流れの中で、視聴覚ライブラリーの廃止や縮小が論議されたら、あってはならないことと思っている。

視聴覚教育の推進の中で、視聴覚ライブラリーが果たしてきた役割は大きなものである。有用な貸出視聴覚教材を、資料選定委員会まで開催し、かなり整えてきた。それは、大切に貴重な財産になっている。視聴覚ライブラリー所蔵の貸出視聴覚教材は、上映ができ集団視聴・集団学習ができるように著作権をクリアしている。このことは、視聴覚ライブラリーの生命線とも言える。

近年、ICT教育の推進が、最重点とされてきたが、その中において、視聴覚ライブラリーの充実と活動は、取り残されてきた感がある。

ICT教育の中で、集団学習に使える教材は、視聴覚ライブラリー所蔵のものである。特に、使い勝手のよいDVD教材も著作権がクリアになっている。視聴覚ライブラリー所蔵の映画であっても、ICT教育の推進の一つになるものと思う。だからこそ、視聴覚ライブラリーを維持し、その充実と活用を推進したい。

視聴覚ライブラリーの現状を見ると、もっとも大切にされる視聴覚教材の貸出が、減少している。特に、16ミリ映画教材の貸出は、激減している。コロナ禍でそれが顕著になった。それにともない映写機の貸出も激減している。

また、視聴覚ライブラリーへの行政支援も、維持できていない状況が続いていて、貸出数が減少

していることから、行政支援を維持したり、増やしたりしなければならない根拠を失っている。

■16 ミリ映写機操作講習会の方向性

視聴覚ライブラリーの維持・充実のためには、視聴覚ライブラリーの使命である視聴覚教材や機器の貸出数が減少せず、維持され、さらには増えていく必要があることは言うまでもない。

視聴覚ライブラリーは、視聴覚教材の中でも、16ミリ映画教材をもっていることが一番の特色になっていることから、その貸出数を減少させず、維持、増加させていくことが大事になってくる。

そのための対策として、16ミリ映写機操作講習会の開催が重要になってくる。その実施によって、借りることのできる人の数を増やすことができることに結び付くからである。

そこで、16ミリ映写機操作講習会の方向性について、次の提言をする。

(1) 講習会の実施を維持し続け、さらには、開催回数を増やす。

(2) 講習会に付加価値を付け、参加者を増やす。

このことで、視聴覚ライブラリーを維持し、その充実に繋げることができる方策の一つになると考える。

(1) 講習会の開催回数を増やす

16ミリ映写機操作講習会の開催回数を増やすには、講習会に付加価値を付けて、その付加価値ごとに開催することを提言する。どのような付加価値をつけるかは次の(2)で記述する。

講習会の講師の不足や高齢化が問題になっていることから、県レベルで、16ミリ映写機操作講習会の講師を養成する「指導者講習会」、あるいは市町村レベルで「講習会実施のための事前講習」を実施することが望まれる。また、「講習会」の

中でも、グループ別講習を実施し、その中で、グループでの指導をしてもらい、講師の養成をしていくことも考えられる。

一方、講師については、県や他の市町村の視聴覚ライブラリーと連携して、講師の不足や高齢化を補い合っていくことも大事である。

なお、筆者は、県視聴覚センターの職員であったとき、何度もいくつかの視聴覚ライブラリーでの講習会の講師を務めてきた。そして、それを通して視聴覚ライブラリーとの連携を図ることができた。

(2) 講習会に付加価値を付ける

付加価値を付ける具体例として、

- ①視聴覚ライブラリー利用講習を入れる。
- ②著作権講習を入れる。
- ③ICT活用講習を入れる。
- ④映写機メンテナンス講習を入れる。
- ⑤視聴覚ライブラリー関係職員研修の中に入れる。
- ⑥大学の講義の中に入れる。

が考えられ、それぞれについて解説する。

①視聴覚ライブラリー利用講習を入れる。

視聴覚ライブラリーの教材や機器の貸出数を増やすには、利用ニーズを高めなければならない。そのためは、どのような貸出教材や貸出機器があるのかを周知することが必要になってくる。新規購入教材や機器は特に必要である。このことについては、別途広報している訳であるが、本講習会の中でも知らせて、利用促進を図る。なぜなら、講習会受講者は、借り手としての重要な役割を果たす人材になっていくからである。

②著作権講習を入れる。

視聴覚教材の利用や制作では、著作権についてよく理解し配慮していくことが、最近のICT活用が推進されていく中で、特に必要になってきた。そこで、その著作権についての講習ニーズが高まっている。そして、視聴覚ライブラリー所蔵の貸出教材（特に、16ミリ映画教材）は、著作権をクリアし、安心して上映でき、集団学習ができるものになっていることを知らせることができからである。筆者は、16ミリ映写機操作講習の中で、視聴覚ライブラリー利用講習や著作権講習を取り入れている。また、「講習会」の中でも、グ

ループ別講習を実施し、その中で講師の養成もしている。

③ICT活用講習を入れる。

どのようにICT活用をすればよいかを学びたいというニーズは、今や大変高くなっている状況である。具体的には、ICTのハードやソフトの技能習得講習が考えられる。すべての視聴覚メディアの技術講習をするのではなく、ニーズの高いものを実施すればよい。そして、視聴覚メディア技術習得の大事なことのひとつとして、16ミリ映写機操作講習を位置付けるのである。

④映写機メンテナンス講習を入れる。

16ミリ映写機の主要機器メーカーは、その販売や保守を既に終了している。そのため、所有している16ミリ映写機を大切に使うていかなければならない。したがって、映写機のメンテナンスが特に重要になってくる。そこで、16ミリ映写機の操作を習得するだけでなく、そのメンテナンスについても学ばせたいものである。

⑤視聴覚ライブラリー関係職員研修の中に入れる。

視聴覚ライブラリー関係職員として、16ミリ映写機の操作ができることは必須な資質である。また、これからは映写機のメンテナンスや修理ができることも重要になる。それを職員研修でするのである。

以上の①～⑤については、付加価値単独の講習会の開催を企画することも勧めたい。

⑥大学の講義の中に入れる。

大学の視聴覚教育や社会教育の講義の中に、大学とコラボして16ミリ映写機操作講習を入れる。筆者は、実際に群馬大学の社会教育実践研究の講義の中で実施し、認定証を取得させている。

たつみ やすひこ

1953年群馬県前橋市生まれ、慶応大学工学部卒。群馬県小・中学校教員、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、国立赤城青年の家、群馬県視聴覚センターに職員として勤める。元群馬県中学校長会長、群馬県退職校長会長、吉岡町教育委員会点検・評価委員、前橋市立勝山小学校評議員、植野自治会長等務める。

